

2024年 年頭のご挨拶

熊本経済同友会 代表幹事 笠原 慶久



新年を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

さて、今年、令和6年は、アフターコロナで4年ぶりの賑やかな新年となった一方で能登半島地震、羽田空港事故と、衝撃的事件が立て続けに発生し、波乱の船出となりました。

ウクライナ、ガザでの戦闘を始め、世界情勢も混沌とし分断を深めており、その影響はインフレを始め私達の生活にも大きな影響を与えております。また、今年も世界も日本も熊本も選挙イヤーでありまして、その結果次第では大きな変化が起こりうる懸念もあります。

一方、熊本県におきましては、TSMCの熊本進出を契機に、100年に一度ともいえる好機が訪れています。

私はいつも言っていることではありますが、この好機をどのようにものにしていくかは、私達経済界の行動によって大きく変わるものであると思っています。変化を受け身で捉えるのではなく、自ら、幸運の女神の前髪を掴むがごとく、積極的に投資をする、即ち、行動することによってのみ、この好機をものにする事ができるものと信じます。

私が理事長をしております地方経済総合研究所の試算によると、今年の熊本経済は、半導体関連をはじめとする民間な旺盛な設備投資が牽引し、全国を上回る実質1.3%の成長を遂げる見通しであります。経済の活性化は半導体関連産業だけでなく、あらゆる産業に波及し、長らく6兆円前後で足踏みしている県内総生産も今年は6兆8千億円と過去最高となる見通しで、7兆円への大台替わりが近々期待できる見込みであります。

又、熊本経済界と台湾経済界とは昨年MOUを締結し、11月には台湾訪問団を派遣しましたが、半導体ビジネスだけでなく、観光も含めて、台湾と熊本・九州との交流が過去にない水準で活性化しており、日台関係でも今年は更なる発展が期待できます。

このような中、課題も勿論沢山ある訳で、熊本経済同友会では、昨年12月26日、熊本県の蒲島知事及び熊本市の大西市長へ提言書を提出しました。詳細の内容は省きますが(別途HP掲載済み)、これは受け身で捉える『「成り行きの未来」を待つのではなく、私達が主体的に迎えるべき「意志のある未来」を目指し、産官学が強力で連携し、オール熊本で「次の理想の百年」に向け邁進する』ことを掲げたものであります。

私は今年の一文字を「進(シン)」、「進む」としました。熊本県に訪れた良き流れを生かすため、「我々経済界が自ら前に進んでいくこと」が大事です。

2024年は、本当に勝負の年になると思います。

熊本の経済界にとりまして有意義な1年となりますことを、心より祈念いたし甚だ簡単ではございますが新年のご挨拶とさせていただきます。